

2023年10月15日 香油を惜しみなく、主の葬りために

先週はヨハネ12章を読みつつ、主イエス様の死を感じとって感謝を表しておきたいと願ったマリヤを心にとめました。過越の祭の6日前、エルサレムから東に3キロほどのベタニア村です。

過越の祭は、旧約時代の出エジプトを記念するもので、今日のカレンダーに直せば3月から4月にかけてのお祭りでした。まもなく十字架の死を迎えられる主イエス様に、マリヤは前もって葬りの香油を注ぎました。「家は香油のかおりでいっぱいになった」と美しく記されています。(3節)

彼女は、イエス様が別れを告げるために今日来られたことを感じとり、主に対して最後の感謝を表しました。イエス様は何度もお自身の受難、死を語っておられたのですが、そこに居た弟子達はだれも主の死を考えることはありませんでした。かえって、マリヤの香油注ぎを「むだなことを」と責めました。

1デナリは、当時の成人男子1日分の賃金ですから、三百デナリは三百日分の賃金に相当します。1年は365日です。毎週1日安息日ですから年52日労働を休みとして、三百デナリというのは約1年分の賃金総額・年収に当たる額です。

イスカリオテのユダは、マリヤに「なぜ、この香油を三百デナリで売って、貧しい人々に施さなかったのか」と非難しましたが、「貧しい人のために」というのは彼の正義ぶった偽善です。(6節)

私達もユダのように「無駄か・無駄でないか」と計算づくの考え方を、正義を装って語らないでいましょう。

彼女はこれまでの数々の感謝、特に、弟ラザロをよみがえらせてもらった感謝を、主の近づいている死をまえにして、この時、表そうとナルドの香油を惜しみなく主の葬りために注ぎました。マリアが香油注ぎをしている間中、主は彼女のするままにさせて、6日後の御自身の死に備えておられたことでしょう。

● 今日の礼拝も、会堂と家庭でオンライン結ばれていることを感謝いたします。午後はリーダー【晋一兄・義岩兄】による班別集会があります。各自昼食のご用意を。

● 先聖日(10/8)リーダー会【役員会】があり、年末年始の予定を確認しました。12/17(日)午後、SSクリスマス祝会。12/24(日)クリスマス礼拝。午後祝会。内容、経費などはさらにハンナ会、教会員で検討を加える。12/31が(日)ですから、1/1(月)の元旦礼拝はありません。1/7(第1日曜日)、聖餐式、事務集会。午後、主人会担当、青年も共に「餅焼き昼食会」を予定。

● 11/5(日)の午後は、主人会は青年と一緒に1F物置(2カ所)の整理。不必要なものを廃棄します。

● 木曜日(10/12)、長岡からバーゲット先生ご夫妻が来訪。藤野夫妻と交わりの一時を感謝。

● 急速に秋めいてきました。先週も植物部【香住姉】によって花の手入れを感謝。

● 神学校【斉藤校長】は、10/31(火)～11/1(水)、秋期講座。11/2(木)～11/3(金)、オープンカレッジ。「2024年度入学考査・11/21(火)ご案内が掲示されています。

● 毎月の宣教献金に感謝いたします。F海外宣教委員会から「宣教クオーター」を頂いていますからお受け取り下さい。

● 英国の説教者がマリヤの香油そそぎから「それは来たるべき最後の審判の日の前兆でもあります。その大いなる日、地上でキリストの栄誉のためになされたことは、何一つ忘れられていなかったことが分かります。その日、キリストとキリストの家族のためになされたことなら、どれほど、か弱いキリスト者女性のどれほど小さなことでも、永遠の記録の書に記されていたことがわかるでしょう。

ほんの親切な一言、あるいはほんの一杯の冷たい水、ほんのひとつばの香油も、その記録からはぶかれることはありません。私達はキリストのために働くことが何を意味するか知っているだろうか。もし知っているなら、勇気を出し、働き続けよう。」と語りました。